

令和4年度 第11回吉川区地域協議会次第

日時：令和4年12月15日（木）午後6時30分
場所：吉川コミュニティプラザ 大会議室

1 開 会

2 会長あいさつ

3 報告事項

- (1) 会長報告
- (2) 委員報告
- (3) 事務局報告

・11/24 視察研修の感想について

4 諮問事項

- (1)上越市吉川ゆったりの郷の一部廃止について

5 協議事項

(1) 自主的審議事項

- ・各部会の取組について
- ・地域活性化の方向性について

(2) その他

6 総合事務所からの諸連絡について

7 そ の 他

- ・次回地域協議会の日程調整

月 日 () 時 分から

吉川コミュニティプラザ

8 閉 会

令和4年度 吉川区地域協議会委員視察研修 <概要>

- 日 時：11 月 24 日（木）午前 9 時～午後 5 時
- 研 修 先：道の駅良寛の里わしま（長岡市島崎）
道の駅瀬替えの郷せんだ（十日町市中仙田）
- 出 席 者：委員 10 人、事務局 1 人
- 研修内容：運営形態、各店舗等の連携や催し、地域等との協力や連携
- 説明概要

【道の駅良寛の里わしま】

○対応：山田駅長、久住ゼネラルマネージャー（説明者）

○説明概要：

- ・平成 3 年にふるさと創生事業で「良寛の里」が整備され、平成 18 年の旧和島村と長岡市の合併を機に新しい計画が作られた。
今年から自分がゼネラルマネージャーとなり、コンセプトメイキングを行い 5 年計画を作った。駅長は広報担当で、マネージャー（マネジメント）は別が良いと考えている。
- ・116 号沿い 89 km でトイレがある道の駅は、ここだけ。「立ち寄り型」の道の駅となる。農産物の直売にも力を入れている。
- ・売上は年間約 1 億円。指定管理料 2,000 万円。NPO 法人で運営。
- ・スタッフは全部で 22 人。常時 10 人で運営。地元の職員が 8 割。
平均年齢は 69 歳（厨房担当は平均 73 歳）。
- ・「自走できる地域」「行政に頼らない地域の先達に」を目指している。
行政に頼ったり、文句を言うのではなく「気にしない！」。
- ・現状で良いものを探してブラッシュアップ。あるものをどう探すかが重要。
- ・全国 200 頭しかいないガンジー牛の 2 割が和島で飼育されており、その牛乳を使ったソフトクリーム「ガンジーソフト」はウリになっている。
通常の乳牛に比べ、搾乳量が半分で成分は倍と言われている。
もともと、地元の会社が製造する牛乳の原材料のひとつとして使われていた知名度の低いものを、ブランドとして前面に出したもの。
移動販売車で、道の駅わしま以外にも出向いている。
- ・野菜の直売は、地域の農家から買い取る形で販売し、売れ残ったものは

漬物などの加工品に利用している。

- ・経済が伴うことが大事。きちんと給料が払えて、従業員を雇える体制が不可欠。
- ・流れを逆に捉える発想も大事。高齢化が進み、高齢者の一人暮らしが増えてきているのなら、「高齢者が一人でも暮らせる」地域を目指すなど。
- ・道の駅内の旧休憩施設を利用し、着付けや生け花、手芸、ヨガなどの教室を「良寛塾」として行っている。参加者（受講者）の7割以上は長岡圏外の人。
- ・これからは「観光」より「感光」。

【道の駅瀬替えの郷せんだ】

○対応・説明：長谷川駅長

○説明概要：

- ・平成20年に地域唯一のスーパー「A コープ」が閉店、JA（支店？）が撤退するという話がきっかけで、地域の農業や高齢者等の生活支援を目的に株式会社を設立。平成23年から体験交流館（道の駅）の指定管理者となり、道の駅内の売店や農産物直売所、食堂を運営している。そのため、道の駅の売店は、土産物や地域の物産よりも「日用品」販売の色合いが強い（ヤマザキショップの看板）。
- ・正規職員4人、パート職員8人、専従役員2人。売上高約4,787万円。
- ・会社は、「仙田の地・人・風土を愛し、地区の信頼の下に全員で支えあう意識をもって経営にあたり、地区の「マネジメント法人」として「新たなる公」をめざす」ことを理念としている。中山間地の信頼される「便利屋」になる必要があると考えている。
- ・農業振興事業（集積面積9.5ha）として、離農者に代わる水田耕作（利用券設定）、農作業困難者への支援（農作業受託）、育苗組合やライスセンター業務など農業関連組織の運営受託を行っている。中山間地の農業は農林業の仕事ではなく福祉の仕事。
- ・高齢者支援事業として、冬季の屋根雪除雪（20戸前後）、NPOと連携し高齢者通所事業を実施している。
- ・地区の生活環境の支援事業として、仙田体験交流館（道の駅）の指定管理、道の駅内で、無店舗地区解消のための店舗と地産地消を推進する食堂の経営、地区イベントの開催や行政との調整を行う仙田地区振興会の事務局用務を行っている。
- ・課題としては、資金難、人材難に加え、従業員の通年雇用や良好な給与条件の設定が難しい。

- ・色々な考え方がそれぞれあって良いとは思いますが、道の駅に色々と詰め込みすぎるのではないかと思う。考え方はシンプルで良いのではないか。

■委員感想（概要）

○道の駅良寛の里わしま

- ・現在の管理体制が非常に少人数で冬囲いも一切しないという省力化した経営で、運営方法を工夫しておられた。
- ・色々と新しい企画を打ち出しており、自分たちが伺ったときも、平日にも関わらず結構多くのお客がいたことをうらやましく思いました。
- ・元広告業に従事され、これまで地域やまちづくりに携わり、福祉方面にも明るいという経歴のマネージャーが、説明対応をしてくださったが、吉川の道の駅にも、そのような人材が必要なのだと思いました。
- ・良寛にまつわる施設が大きなウエイトを占めており、記念館的施設中心のイメージが強い道の駅と感じました。本来の道の駅自体は大きくはないようですが、施設も新しく予算投入も行われ積極的な改善運営の様子を感じられました。
- ・道の駅事業も様々な工夫を凝らして多種多様に行っており、人、アイデア、体制等も揃い順調に感じますが、良寛故の感も強く、今後とも行政支援の存続を願います。

○道の駅瀬替えの郷せんだ

- ・いつか吉川がそこまで過疎化が進んだ時、このようなやり方もありかなと感じました（日用品を扱う店舗の維持、農地の維持・管理、冬季高齢者の生活支援など）。
- ・代表の方の努力と色々な負担について頭が下がる思いでした。
- ・地域課題への対応も含めて運営され「農業経営」「土木・除雪」「農産物の加工」など多くの地域課題解消に積極的に取り組まれているところに強く興味を持ちました。自分の生活環境と似た地域での活動に親近感がわき、興味深くお話を伺いました。
- ・地域の生活の受け皿として位置づけられた道の駅で、日常生活の全てが集約された地域密着型の施設として、規模は大きくありませんが、ここに来れば衣食住・命は何とかなる、地域とのつながりも大丈夫、生きるために必要な、山の中にある小さなみんなの心のよりどころを感じました。
- ・ただ、道の駅という組織感が感じられなかった反面、人、アイデア、体制等、人の繋がりが揃っていてこそ、成り立っている所かと感じました。
- ・将来的には、厳しい地域かもしれませんが、道の駅としてではなく、地域の

皆さんのための拠点・よりどころとして、続くことを願います。

○その他（2か所を通じて）

- それぞれの駅長さんが強いリーダーシップ、しっかりと戦略を立てて運営されているように感じました。今ある条件を尊重して独自色を発信しておられました。

これまで当事者や行政など関係者との会議に参加して、自分なりに考えてみるのですが、よしかわ杜氏の郷は果たしてどうなのか？

よしかわ杜氏の郷を全体または統一したリーダーがない。戦略が確立されていない。明確な目標が見えない。各企業は個々の営業で精いっぱい、もう一歩前進して立ち上がる姿が見えない。人材難、財政難で片付けて良いのだろうか。

お金が無いからできない。人がいないからできない。ではなく、まずは何があるのか。どうしたら良いのか。どうしたいのか。見える化をして、全企業・全従業員での取り組みが必要ではないかと思います。

トイレを磨く、宝を磨くことから始めることが必要だと思います。

- 視察した2箇所の道の駅に関しては、行政任せではなく住民自らがNPO法人や株式会社を立ち上げ運営しています。

地域を活性化させるには他人任せではダメ。自分達で積極的に取り組んで行かなければならない。吉川道の駅も行政に頼るだけではなく、地域住民による運営とすることが望まれそれが魅力ある道の駅、活性化への第一歩と考えます。そのためには強い意志・夢を持った核となるリーダーを養う必要があると思います。

- 吉川道の駅ならではの特徴を持たなければならないと思います。それがリピーターを増やす一つの手段。（吉川に行かなければ無いという物、事）

その手段の一つとして考えられるのは、杜氏の郷と長峰ゆったり温泉とのコラボです。折角「酒」と「温泉」という良い施設と隣接していながら一体化が感じられません。三社がバラバラな運営方針ではなく、一本化したコンセプトの基に協力しながら活性化に取り組んで行くことが必要であると思います。

- 人から来ていただくのを待つではなく、こちらから積極的に人を呼び込む手段が必要であると思います。例えば、吉川ならではの特産品をPC等各種情報手段の活用により、積極的に外部にアピールして行く。日本酒（酒造）、尾神そば、自然薯、酒かす・黒ごまのソフトクリーム、等々。良寛の里で行っている様な移動販売も一つの手段であると思います。

- 吉川区の玄関的役割を成す様に、名所・旧跡を始め区内アピールポイント

を紹介する看板やリーフレットを作製し、広く宣伝したら良いと思います。視察した道の駅と比較して、吉川道の駅は全く雰囲気暗い。何故なのだろうか？

駐車場は目立つが建物が目立たない。目立つ建屋は杜氏の里だけ。

建物は幾つかあるが、開いているのか閉店なのかがはっきりしない。

建物周囲が乱雑、それぞれの看板も統一性が無く古くて清潔感に欠ける。

駐車場も区割りが悪く利用し難い。(出入りし難い)

BGMも聞こえない、店内ではセールスコールも聞こえない。

そのようなことを感じるのは私だけだろうか。

- ・ 「良寛の里わしま」は良寛の里美術館や点在する各施設・地域交流ゾーンを有する大きな施設、「瀬替えの郷せんだ」は地域密着の小さい道の駅の印象で、道の駅の運営ばかりではなく、地域課題の解決方法も教えていただきました。何れの道の駅も、運営する上で、取りまとめ役の重要性を痛感しました。

運営組織として、NPO 法人・株式会社等を設立して、働く人の賃金保障、後継者の育成を図っているところに感銘を受けました。

吉川の道の駅の活性化に結びつけるには、運営組織の積極的事業展開を明確にし、取組をしなければならないと強く感じました。

環境、立地条件、行政支援等、単純に比較することはできませんが、当区にも地域素材は豊富にあり、人、アイデア、体制等を駆使して、賑わいある道の駅として、地元皆さん奮起すべき時かと考えます。

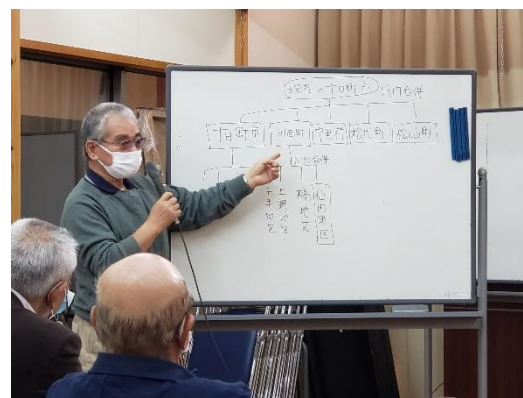
2 つの道の駅を視察させていただき、ある意味で対症的な施設ではないかと思いました。1 つはまだまだこれからも色んな事を仕掛けて、また若い人の雇用等も視野にいれ考えている。一方は地域の要となるように地域に寄り添いあった施設だと思いました。いずれもやはり中心になるリーダー的な人材があつてのことかと強く感じました。施設全体でのコンセプト、目標など芯にあるものをぶれなく持ち続ける事が一番だと思いました。また原点に帰り、道の駅の定義も考えて見てはどうか、プロデュース等をしてくれる所をお願いするのも 1 案かと思いました。

■視察研修の様子

○道の駅良寛の里わしま



○道の駅瀬替えの郷せんだ





上施第39168号
令和4年11月29日

吉川区地域協議会
会長 山岸 晃一 様

上越市長 中川 幹太
(産業観光交流部 施設経営管理室)



上越市吉川ゆったりの郷の一部廃止について（諮問）

下記の事項について、上越市地域自治区の設置に関する条例第7条第2項の規定により意見を求めます。

記

諮問第81号 上越市吉川ゆったりの郷の一部廃止について
※ 諮問内容については、別紙のとおり

[諮問理由]

吉川ゆったりの郷施設「酵素風呂」は令和2年度から休止しており、設備の老朽化及び利用実態を踏まえ、施設を廃止することに関し、吉川区の住民の生活に及ぼす影響という観点から、意見を求めるもの

別紙

現況	諮問内容
<p>1 目的 市民の健康を増進するとともに、市民の交流を推進し、もって地域における福祉の向上に資するため、ふれあいセンターを設置する。</p> <p>2 名称及び位置 上越市吉川ゆったりの郷（吉川区長峰 100 番地）</p> <p>3 施設</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 浴場 (2) 酵素風呂 (3) 大広間 (4) 和室 (5) マッサージ (6) リラックスルーム (7) 子どもルーム (8) 食堂 (9) ゲートボール場 (10) その他付属施設 	<p>1 廃止予定施設 (2) 酵素風呂</p> <p>2 廃止予定日 令和 5 年 4 月 1 日</p>

※ 施設の概要については参考資料 1 のとおり

上越市吉川ゆったりの郷の「酵素風呂」廃止について

1. 施設概要

- (1) 施設名称：上越市吉川ゆったりの郷
- (2) 位置：上越市吉川区長峰 100 番地
- (3) 設置：平成 9 年 7 月
- (4) 管理形態：指定管理（株ゆったりの郷）
現指定管理期間（令和 4 年 4 月 1 日～令和 7 年 3 月 31 日）
- (5) 施設内容：①浴場 ②酵素風呂 ③大広間 ④和室 ⑤マッサージ ⑥リラックスマルーム
⑦子どもルーム ⑧食堂 ⑨ゲートボール場 ⑩その他付属施設

2. 施設利用状況 (単位：人)

区分	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3
利用者数	—	—	128,323	128,213	135,516	133,354	127,003	74,667	104,657
うち 日帰り入浴	72,363	78,229	77,453	74,473	79,245	78,609	75,085	42,989	31,375
うち 酵素風呂	946	694	697	865	759	792	514	休止	休止

3. 酵素風呂に関する状況

吉川ゆったりの郷における「酵素風呂」は、ヒノキの箱におがくずと野草から抽出した酵素を入れて自然発酵作用で発熱する風呂であり、開業当時は近隣でも珍しく、新陳代謝を促す効果があると多くの利用者があった。

近年利用者は減少し、令和 2 年 4 月の新型コロナウイルス感染症拡大に伴う施設の一時休館を機に、感染症拡大防止のため、現在まで酵素風呂の営業は行っていない。

4. 酵素風呂に関する今後の方針

感染症対策の観点からも今後の著しい利用者の増加が見込めない状況の中、営業再開には老朽化した浴槽（箱 2 基）の機械設備の補修、更新に多額の費用が必要となっており、今後の維持管理費と利用実態を踏まえ、「酵素風呂」を令和 5 年 4 月 1 日で廃止する。

5. 酵素風呂廃止後の取扱

「酵素風呂」廃止後の施設の用途については未定。今後検討を行っていく。

6. 今後の予定

- 令和 4 年 12 月 吉川区地域協議会に諮問
- 令和 5 年 3 月 市議会 3 月定例会に施設条例の一部改正を提案
- 令和 5 年 4 月 施設条例の一部改正（4 月 1 日設備廃止）

吉川ゆったりりの郷「酵素風呂」



浴槽（箱）：縦 225 cm×横 120 cm×高さ 76.5 cm

■ 各委員から提案があった構成要素等

① 移住(者)促進

★空き家の活用

- 空き家情報の積極的発信
 - ・ 主に大都市部へ発信・広報し、移住希望者を募り、人口増へ繋げる。
 - ・ 空き家を整備し、田舎体験への貸し出し。
- 空き家の活用→新規移住者向けに居住できないか、サロン等として
- 一人暮らしの増加で空き家を安値で提供し移住者が入ってくる環境作りを進める。
- 空き家の有効活用や休日には寛ぎが出来る場所等の設置またいろんな支援の提案等

★移住施策・仕組みづくり

- Iターン、Uターン者の受け入れ→地域おこし協力隊との連携・協力
- 若い世代の人の定住移住の促進
- 市の担当者と相談して、移住できるような仕組みづくり
- 新規移住者の受入（住まいと仕事）

② 農業振興

★耕作放棄地の有効活用

- 耕作放棄地の有効活用
 - ・ 耕作放棄地を活用して、吉川区の「木」であるウメを栽培し、実を商品化する。ある程度広範囲で栽培することで、春の開花時には観光名所にもできる。
 - ・ 耕作放棄地を活用して、吉川区の「花」アジサイを栽培し、アジサイ園を造り観光名所にする。
- 耕作放棄地の有効利用（ソバ、小麦、大豆、里芋等生産と加工）

★営農の形態等

- 集落営農
- 農業したい若者へ発信
- 外に向けた発信で、農業をやりたい人を呼び込み、その受け入れがしっかりできるようなシステム作り。
- 都市の大手スーパーをターゲットにした、地元山菜や野菜・米等の販売。

③ 若者の定住促進

★企業、働く場の確保

- 企業が増えて若い世代が就職できる環境の整備また安定して暮らせる笑顔あふれる地域作り

★子育て支援

- 子どもを育てやすい環境で子育て支援の手厚い地域。若い世帯が住みたくなるような魅力ある吉川。独自の支援や安全安心に子育てできる地域の整備
- 手厚い子育て支援（市全体で）

④ 歴史・文化の振興・発信

- 史跡・文化財を活用した企画の実施
 - ・ 単に見学して廻るだけのものではなく、魅力ある企画を立案・実施する。
- 吉川独自の酒文化、歴史、温泉、観光場所が多くある。また、吉川の名産品を全国にアピールし、そのイベントを増し、人の呼べる吉川区を発信する。
- 区内の地名にまつわる歴史的価値
- 上杉謙信とゆかりの地の拡散
- 庄屋の活用
- 先人たちの偉業
- 酒（酒造りの歴史・文化）
 - ・ 酒祭りをより観光として取り組む。高校生がさけを作っていたという強み

⑤ 地域コミュニティ、地域活動の維持・活性化

- いつでもどこでも声を掛け合い安心して暮らせる笑顔あふれる地域。独居や高齢者になっても困らない。大雪が降っても安心な地域づくり
- 公民館分館を利用した地域活動
- 小中学生への地域愛教育
- 地域コミュニティの充実（何が問題なのか？解決の方法は？）
- 人が居なくなりそうな集落は無理して空き家に入ってもらわず、ある程度の人数がいる集落の空き家への移住を促進。（10年20年後を見込んで1件だけ残る家にならないように）

⑥ 豊かな自然(を生かす)

- 自然を生かし地元の人との共存ができる暮らし
- 自然を生かし冬季でも楽しめるものを考える
- 自然、山、田舎（コロナ禍で田舎暮らしをしたい人に発信）

⑦ 道の駅よしかわ周辺の活性化

- 酒、農産物を使ったPR
- 道の駅は会場スペースをうまく利用して、色んな小さなイベントができるように整える（少人数の講座（例：野菜の作り方講座）、占い系、手作りの品を作るWS、展示会など）。
- ゆったりの郷、杜氏の郷も含めて道の駅として一体化し、人が呼べる道の駅。地元の若い人が働ける道の駅、にする。

⑧ 尾神岳周辺の活性化

- パラグライダーを利用したまちおこし
 - ・ パラグライダーの人をどうやって吉川に泊まってもらえるか
 - ・ 結婚式
 - ・ 「空を飛べるまち」
 - ・ パラグライダーをもっと市民がしたくなるように発信。
 - ・ 子どもたちが中学で、やりたい人が低料金でやれるような仕組み。
 - ・ いずれは道を整備して大勢が行って、大会やイベントに参加できるようなものにして行く。
- 尾神岳からの水のおいしさ、それによる米の美味しさ

⑨ その他

- 廃校校舎・体育館の有効利用
 - ・ 史跡・文化財の説明・案内資料、民話集、方言集、昔の道具類を展示して、歴史民俗資料館とする等
- 素直な子どもたち
- 現在ある資源・魅力の掘り起こし
- ふるさと納税に見合う贈答品の発掘
- 各施設関係者と意見交換が必要。自己（各々）どうしたいのか。
- 高齢一人暮らしの利便性向上（冬期間集合住宅の検討など）
- SNSやLINEの活用で、吉川の魅力発信

吉川区地域活動支援事業活動報告会 開催要領（案）

【開催趣旨】

令和 4 年度地域活動支援事業を活用した団体等の事業の実施状況や成果を発表する機会を設け、地域活動への理解と区内の自発的・自主的な活動の推進につなげる。

1. 主 催 吉川区地域協議会（上越市）

2. 開催日等 ○一般公開とする

○地域協議会と併せて開催する

○候補日…令和 5 年 2 月 25 日（土）の午前か午後

※時間設定の例

・午前の場合：午前 9 時 30 分～（地域協議会は午前 11 時～）

・午後の場合：午後 1 時 30 分～（地域協議会は午後 3 時～）

・開 会	3 分
・各団体発表：8 分×8 事業	6 4 分
・全体質疑	1 5 分
・（仮称）地域独自の予算について （地域活動支援事業の終了について）	5 分
・閉 会	3 分

計：90 分（1 時間 30 分）

3. 会 場 吉川コミュニティプラザ

4. 内 容

・令和 4 年度地域活動支援事業活動報告（実施団体から）

・令和 5 年度、令和 6 年度（仮称）地域独自の予算の説明
（地域活動支援事業の終了について）

5. 参加周知方法

・各町内会ほか各団体へ開催案内を配布（1 月）

・防災無線による放送